意見交換シート　Aグループ

【学校側が事業所に期待すること】

- 盛岡・滝沢地区には相談に繋がっていない方が多い。
- 特に生活介護の保護者の方はいずれ入所と考えている人が多いが、入所の空きがない
- GHは空きがなければ入所できない

→事業所側は空けていることで報酬が入ってこない

→学校側が4月から入所したいという思いは分かるが…

ジレンマ

- 「視覚支援」というだけで目が見えないと思わずにその生徒を見て判断していただきたい（GHは体験してみて判断する）

【事業所が担う役割、学校に提供できるサービス、課題】

- GHは、色々なサービス体系がある（職員体制、サービスの種類など）
- そこのGHの実態と、学校の生徒のちゃんとしたマッチングが必要（何ができるのか、ルールを守れるかなど）

学校と事業所（GH）、保護者（利用者）としっかり話し合い、卒業まで待った方がいいのか、すぐ入所した方がいいのか、どれがその人のためになるかをじっくり話し合うことが大切

意見交換シート　Bグループ

【学校側が事業所に期待すること】

- 聴覚支援学校：県内各地から幅広く集まる。一般就労を目指すが、知的の子も一定数。地元に帰れたら良いとは思うが…。
- 受入側のコミュニケーション：口話、筆談、アプリなど。

【事業所が担う役割、学校に提供できるサービス、課題】

- 事業所A：入所の出入りがほぼない。一方で日中は生活介護、就労Bともに空きはある。
- 事業所B：GH利用者の重度化、高齢化

  →世話人の業務過多、心労

  →支援員がフォロー、業務の滞り
- 事業所C：「一人暮らしをしたい」という希望に応じたGH支援
- 事業所D:田舎ゆえの資源、選択肢の少なさ

意見交換シート　Cグループ

【学校側が事業所に期待すること】

- 丁寧に関わっていただいている。アセスメント等ー相談支援専門員
- 相談支援専門員：将来の生活、計画本人の将来像
- 実習前から関わりたいという希望

（事業所）関わり方の悩み

- ニーズの定まらないサービスの介入はいつ？
- 福祉の相談窓口、サービスを使う時の繋がり方が分からない。市町村を超える関わり方が分からない。

【事業所が担う役割、学校に提供できるサービス、課題】

- 先生だけの見学もできる
- 実習生の危険行為がある場合は先生が付いてくる
- 相談：先生とのつながりを持っていきたい。言いづらいことも、先生たちと共有していきたい。
- ありのまま伝えてもらうと（詳しい）連携が取れる。（学校）伝えると分かる（事業所）

方向性：生徒のメージがわく見学からは可能か。
相談支援：専門員が付かないときからの見学もできるが、専門員さんも付いていた方がよい。ビジョンが明確だと導きやすい。
ありのままを伝えて受け入れてもらえると良い。

意見交換シート　Dグループ

【学校側が事業所に期待すること】

- 盛岡にGHが集中しがち、他市町村には少ない。

➡盛岡への移行、生活の場の確定を早めにすることで、日中活動の安定につながる。見立てのみでは難しい。

- 実習は2年生、身体の親が焦り、学校を辞めて空きがあるうちに入所希望

➡1年間空けて入所

- 実習の受入充実へ
- 就労への知名度が低い。

➡施設への理解を深め、身体だけではなく、幅広い障害の受け入れをしてほしい。

- 職員の負担、夜勤時等、病院のような設備が不十分
- 定員割れを埋めることも課題。

【事業所が担う役割、学校に提供できるサービス、課題】

- 地域移行が具体的に進んでいない現状あり。
- GH枠の拡大を。

・死亡した場合でないと空きが出ない➡地域移行が進んでいない。
★ロスのない移行➡計画的な地域移行
　急にGHが閉鎖する場合もある（すぐにGHが見つからない（ヘルパー不足））
・SS活用法、安定した供給
・職員不足が課題…事業所が増え続けているため（人手（世話人）不足の要因）
・重度の方を受け入れてもらえるかどうか（GHに入所する割合が増えている）
★環境の充実（年齢制限）
　GHから介護施設へ、介護認定してもらえない。就労Bは何歳まで働けば？

意見交換シート　Eグループ

【学校側が事業所に期待すること】

- 通所はいろいろできているので行先はだいたい決まる。
- 卒業後の「住まいの場」が課題
  （高３の3月というタイムリミットがある）

➡入所やGHでは支援度を高い人をお願いしたい。（身体・知的・精神：個々の状態に応じて）

- 体験や実習を進めてみて。

★GHは人数制限があって、空いていないと紹介もできず、間口も狭い。

★受入側ののスキル等もある。

➡利用者を選ばざるを得ない。

★親御さんの状況もある（養育能力の課題）。

★待機の状況

【事業所が担う役割、学校に提供できるサービス、課題】

- GHでは就労、主にBに通所している人が多い。
- 日中は生活介護に通う人が多い。
- 必要に応じて職員の配置、世話人さん（職員）は24時間体制（夜間男女1名ずつ）

- 3障害に配慮できればサービスの幅も広がっていく。（どうしても事業所は、身体に強い所とか知的に強いとか分かれる）
- ➡学校で得意だったことを生かせる事業所を探す。
  →発信が足りないのかも。

★広域圏の事業所の冊子を作成するとか！？
他の事業所との交流を深めて職員の幅を広げる。

意見交換シート　Fグループ

【学校側が事業所に期待すること】

- 放課後デイを使っている保護者さん方の卒業後の日中一時支援のニーズが多い。

【事業所が担う役割、学校に提供できるサービス、課題】

- 強度行動障害の方（学校在学生）の割合が知りたい。
- 卒業後に改めて学校でどんな支援、どんなグッズを使って支援したいのか、支援の対応などを聞く会議があればよい。

意見交換シート　Gグループ

【学校側が事業所に期待すること】

- 就労Bと生活介護の間の方の進路先
- 少ない選択肢
  （生活介護、身体のGH）
- 学校段階だと親は学校に任せがち
- 大人になってから障がいと診断された人（精神・発達）からの相談（市町役場）
- GHの入れ替わり多い。（自分がイメージしていたものと違う）助言がきついと感じてしまうケース
- 一人暮らし希望多い。見立てで医療など。
- 学校➡順序立てて利用していく。

★入所してからの課題多い。➡相談員が付いていない。

★本人に関する情報共有の難しさ

➡受け入れてから発覚した課題（体験から見えた課題だけでなく）

【事業所が担う役割、学校に提供できるサービス、課題】

- 家族の支援、親による子の見立て。
- 支援学校卒の人＞そうでない人：卒後支援の困難さ
- GHの費用を支払えるか（卒業から年金までの2年間）。←この段階で社会人として何が学べるのか。
- 発達障害、精神手帳、年金ありきでの生活プラン×
- B級で区分2級：GH代でかつかつ
- 去年の夏に早々と体験、タイミングが合わないと入所（難しい）：キープができない。
- 去年4月支援学校卒：入所＋GH利用、仕事と生活のサポート、障がい特性、多岐にわたる。
- 学校に守られていた、大人（社会人）のGHとの温度差。体験してみないと分からない部分。➡考え方が学生。社会で暮らすには、という指導から。

- 早い段階から卒業を見据えた授業支援を
- 支援学校ではなく高校を卒業した後のグレーな方たちの支援の難しさ

意見交換シート　Hグループ

【学校側が事業所に期待すること】

- 家に戻せない生徒がいる（障害の程度：本人・家族、虐待の可能性も）

➡仕事、GHを探す。ＧＨに入れても「ひきこもる」生徒もいそう。

★入所にうまくつないでいけるようにしたい。

- 国の目が…
- 不登校、遅刻➡入所施設に相談中。受け入れ可能だが、本人が希望していない場合、本人への説明が必要。
- 家に戻せないが、入所先が決まらず戻したことも。（目が届く、連絡が取れるようにした）

【事業所が担う役割、学校に提供できるサービス、課題】

- 入所希望者の取りまとめ年2回＝十分ではない。
- 病院からの問い合わせもある。
- 情報はあるが、いつでも受け入れられるわけではない。
- 「予約をしたい」との希望があるが、予約制にしていない（学校を辞めても入所させたいという方も）
- 期間限定の方（自立訓練も×）、愛着の問題、ネットで知り合った方のところへ行くなど本人の意向で施設を出てしまった（支援が切れてしまった）
- GH空き状況、回転率、男女の偏り。すぐ退所の方、延長される方、先が読めない。
- 希望通りとそうでない方は半分ずつ
- ルールを守れない（飲食、お金など）➡なかなか大変、病院に戻る人も。
- 卒業後すぐ入所される方が多かったが、今は地域移行➡GH入所の方も多くなっている。
- 今入所されている方は長い方。高齢でもあるため介護保険へのとなる。
- 入所も空き次第。上手く入れるとよいが。
- GH内も高齢者と若い方でわかれる。
- 出してもまた受け入れるいう形がよい。
- 金銭の問題（年金2級だと生保になる方が多い、入所は特に。）
- 20歳前後の方の入所、高齢者との別の問題がある（男女間の問題）
- 一人暮らし、ダメもとでやらせる。ダメなら戻ってOKと支援できるように。

意見交換シート　Iグループ

【学校側が事業所に期待すること】

- 利用者の責任を事業所が負う場合が多い
- ➡役割分担が重要
- 移行支援会議などでそれぞれの役割の再確認
- 卒業後も相談員さんだけでなく学校も関わっていきたい。

★事業所の活動が高齢者向けになってきている。若い人にマッチしない。

★職員が手薄になる時間帯がある。

★入所時の状況等を次の事業所に伝えていくことが重要。

★学校と事業所側の関係性が重要➡アフターフォローや特性について

【事業所が担う役割、学校に提供できるサービス、課題】

- 在宅に戻す方法、環境を学校側で選べるとよい
- 家庭でできないことを事業所でサポートできると家族が楽になるかも。
- 学校で分かった支援方法（タイマーがあれば声かけなくてもできる等）を伝えられればいい。
- 学校と施設（事業所）での支援方法の違い。実習に来ると学校の評価よりもレベルが高いことがある。学校側の評価が低いかもと思う時がある。なるべく手を書けないような教育もいいかも。

意見交換シート　Jグループ

【学校側が事業所に期待すること】

★特別支援学校の進路に関わる現状と課題について

- 学校：卒業後の生活と日中の場をセットで探さなければならない。生徒が減ってきている。1学年20人切るくらい。入所希望多いが空きがない、自宅で過ごしながら入所を考えていくスタンスを保護者に説明している。
- 施設A：身体対応の資源が少ない。
- 施設B：GH設備面など整っていない。同性介護を求める利用者がおり、人員配置も困難。
- 施設C：身体の入所施設の受け皿が少ない。医療との連携に苦慮。
- 行政：葛巻町、社会資源がない。岩手町など隣接の資源を頼っている。町全体で支援学校生徒を含めた障害者の生活や日常生活の場、雇用について意識を高めないといけない。
- 施設D：計画相談が回らない。件数が多く相談員の配置に苦慮することになるのでは。障害児のケースが増加。相談調達していることが課題。GH増えたが質の問題。人材育成、職員の支援力向上が必要。

【事業所が担う役割、学校に提供できるサービス、課題】

★各事業所において協力、連携等できること

- 入所施設から見て支援学校に求めること➡生活リズムや掃除、洗濯などの習得、寄宿舎生だと獲得できる環境。
- 移行がスムーズにいくためには情報提供、開示が必要。

グループワークのまとめ

学校側の希望

- 4月から入所したい：卒業後の「住まいの場」
- GHの支援内容と生徒の希望とマッチングが必要
- 就労Bと生活介護の間の方の進路
- 聴覚：一般就労、地元に帰れたら

利用者の希望

- 一人暮らしをしたい
- 親は学校に任せがち
- 生活介護の保護者は入所希望が多い
- 活動が高齢者向き、若い世代にマッチしない
- 放課後デイ➡日中一時支援

卒業後の課題

- 金銭の問題（管理、GHの費用を払えるか）
- ルールを守れない
- 家族の問題（養育能力、虐待、障がい程度）
- 発達障がい、精神：年金ありきの生活プランは×

連携の方法

- アフターフォローや特性について
- 互いにありのままを伝える
- 学校で分かった支援方法の共有
- 卒業後に改めて学校と施設が共有する場の設定
- 生徒にとって、いつ入所が良いかじっくり話し合う
- 市町村を超える関わり

解決案

- 体験や実習の推進
- 早い段階から卒業後を見据えた支援
- 生活リズムや掃除、洗濯などの習得
- 卒業後は、地域移行後にGH入所
- 生徒がイメージがわく見学
- 専門員の同行
- 学校で得意だったことを生かせる事業所探し
  ➡広域圏の事業所の冊子を作成
- 他の事業所との交流、職員の幅を広げる

相談

- 相談に繋がっていない方が多い
- 先生とのつながりも持ちたい
- ビジョンが明確だと導きやすい

施設側の悩み

- 盛岡に施設が集中している
- 資源、選択肢が少ない地域もある
- 入所の出入りが少ない、男女の偏り
- 世話人の業務過多、心労、職員不足

GH等入所

- 施設ごとに色々なサービス体系がある（職員体制、サービスの種類）
- 就労、主にBに通所している人が多い
- 学校に守られていた、大人（社会）とGHとの温度差